



自由経済システムの再考

令和7年6月2日

黒田インターナショナル コンサルティング LLC

黒田 毅

自由というルールは無限の創造性を与えその進歩と向上を経済が行う。経済は生活と社会の根本性であり、生活を維持する唯一の手段である。

これが自由と創造の原理である。しかしその進歩性の拡大は対立を求めるものである。これらは今日世界が対立の構図を有することへの正しい考察である。

さらなる技術要求は、経済における独歩でなく、計画的な次世代技術の確立を世界が要求するものである。

これらは経済のシステムそれ自体が、生存要求への供与とその競争原理における進歩と向上を金融経済の支配において有するのである。

これらは生存要求と経済の構築という原則は歴史において普遍であることを意味するものである。しかし新たな豊かさの創造を今日の経済の革命的な変化とともに新しい社会の枠組みを提案するとき、新たな選択を世界が有することができるのである。

これらは生存要求という原始的な要求に対して、人類がその進化性を求めるとき、経済の向上における生活の保証は新たな目的を人生において与えることができるのである。

これら視点は企業が自らの在り方に対して、その新たな選択を求められるのである。利益の追求という現実に対して社会との共生とその企業システムの完成は社会という枠組みに対する企業の責任としての立脚なのである。

これらは企業の原点が、市民への責任とその生活の向上への参与であるということになるのである。

これらは企業がその使命を明示することでその経営が新たな段階と可能性へ飛躍できるのである。